

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 役員選任「立候補意思表明書」

2023年 5月 2日 氏名 岩村浩秀

【JHF 活動履歴】
学生ハング 東海大学ハングライダー同好会（現アニマルズ） 昭和58年 学生選手権、日本選手権出場 スポーツオーパカイト ハングライダースクール 指導員補佐
社会人 全国各地大会出場

2013年～2023年 JHF 監事

【JHF 定款への理解】（どれかひとつをマルで囲んでください） 熟知している・ある程度理解している・一通り目を通した・これから目を通す
--

【立候補意思表明】公益社団法人 JHF の活動に関するご自身の考え。 その際に下記2点を含めて下さい。 (1) 今後の JHF が活動していくべきと考える事 (2) ご自分が理事として実践していきたい事 JHF 監事に6期目の立候補をいたします、岩村浩秀です。東京で生まれ育ち東京で税理士法人と監査法人の代表を務めています。 気が付けばJHFに監事としてかわり10年が過ぎました。最初に立候補した時は52歳だった年齢も62歳になりました。この業界の問題点についても理解しつつありますが、この10年間の社会情勢も当初とはだいぶ変わった気がします。 日本は本格的な少子化社会に突入し、趣味・嗜好も大きく変化してきており、スカイスポーツ全般の愛好者の数も人口の減少とともに減少しています。 このため、フライヤーの数も若年層の減少とともに年々減少し、その結果高齢化も進んでいます。これらは日本の社会全般の根本的な問題点であるため、今後さらに進んでいくと思われます。従って、JHFの最大の業務は、いかにして会員数の減少を食い止めるか、又、高齢化する中での、安全なフライトをいかに確保していくことが重要な課題と考えています。 上記課題を達成するための方法としては、指導者の育成や個々のフライヤーの意識の改革、事業者の役割等をどうやってコントロールしていくべきかが重要な課題と考えています。ここ数年、MPG・PG・HGに限らずの重大事故の発生数が増加していますが、事業者（スクール・販売会社）と個別フライヤーへの対応の区分があいまいになっていると感じるからです。フリーフライトの原則を未来へ継続していくためには、これらの論点をいかに解決するかが重要な課題です。 次年度からは監事としては上記の問題点を踏まえたうえでJHFの事業執行状況を見守っていきたいと思います。 更に、JHFは公益財団法人であるとい側面があるため、広く社会一般の公益に資する活動が求められます。このため、JHFは事業者や個々のフライヤー会員の社会的地位の向上や、必要な情報発信、そして安全なフライトを行うためのとりまとめていく必要があるかと思っています。 私は監事としてJHFのこのような側面を会計や法人法の専門家として補完していきたいと考えています。今後もJHFに関わり続けたく皆様のご承認をいただけるようお願い致します。

※この立候補意思表明書は JHF ホームページに掲載し一般にも公開されます。

文字数制限はありません、また必要に応じて用紙を増やして下さい。この用紙をワードファイル (.doc または .docx) での提出、または上記項目を漏れなく網羅してテキストファイル